

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	411	2年	前期	臨床検査学科	必修	血液学 Hematology	30	1
担当教員								
竹内 一人								
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	○ ② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	○ ③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	○ ④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
血液疾患を診断するための血液検査ができるようになるために、実務経験に基づいて病態把握の基礎となる正常の形態や生理的機能などを理解し、必要となる血液学の基礎（血球の産生と崩壊、形態と機能、凝固・線溶系の機序など）を身につける。								
到達目標（授業目標）								
	①血液成分の種類とその性状及び機能について説明できる。							
	②血球の種類とその産生（分化、成熟）および崩壊のメカニズムについて説明できる。							
	③各血球の形態と機能、生化学について説明できる。							
	④血液凝固因子による止血機構と抗凝固因子による凝固制御について説明できる。							
	⑤線維素溶解（線溶）の機序と制御機能について説明できる。							
	⑥出血性素因と血栓症の検査法および抗血栓療法について説明できる。							
	⑦血球計数の原理、形態学的検査、表面マーカー検査、染色体検査の基礎について説明できる。							
授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
回								
1回	血液の基礎（1）・血液と血液検査学、血液の成分、血液の性状、血液の機能について講義する。							
2回	血液の基礎（2）・血球の観察、血球の産生と崩壊について講義する。							
3回	赤血球（1）・赤血球の産生と崩壊、形態と機能について講義する。							
4回	赤血球（2）・赤血球の生化学（エネルギー代謝、ヘモグロビン代謝）について講義する。							
5回	赤血球（3）・赤血球の生化学（鉄代謝、ビタミンB12・葉酸の代謝）について講義する。							

6回	白血球（1）・白血球の産生と崩壊、白血球の形態と機能（好中球）について講義する。									
7回	白血球（2）・白血球の形態と機能（好酸球、好塩基球）について講義する。									
8回	白血球（3）・白血球の形態と機能（単球、リンパ球）について講義する。									
9回	血小板・血小板の産生と崩壊、形態と機能について講義する。									
10回	止血機構・血管と止血、血小板の機能について講義する。									
11回	凝固・線溶系（1）・血液凝固機序と凝固因子について講義する。									
12回	凝固・線溶系（2）・線溶の機序と制御機能、分子マーカーについて講義する。									
13回	凝固・線溶系（3）・出血性素因とその検査法、血栓症と抗血栓療法について講義する。									
14回	血液検査の基礎・血球計数機等の原理、血球の形態学的検査法について講義する。									
15回	血液細胞抗原検査、染色体に関する検査・CD分類、免疫組織化学染色、フローサイトメトリの原理と応用、染色体の基礎、検査法、染色体異常について講義する。									
16回										
17回										
18回										
19回										
20回										
21回										
22回										
23回										
24回										
25回										
26回										
27回										
28回										
29回										
30回										
成績評価方法及び基準										
筆記試験（100％）により評価する。 評価は100点満点とし合計60点以上を合格とする。										
教科書	奈良信雄・小山高俊 著「最新臨床検査学講座 血液検査学 第2版」（医歯薬出版）									
参考図書等	JAMT技術教本シリーズ「血液検査 技術教本 第2版」（丸善出版） 矢富裕、増田亜希子、常名政弘 編「血液形態アトラス」（医学書院） 医療情報科学研究所「病気がみえるvol.5 血液 第2版」（メディックメディア）									
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）										
前回講義分に関して復習しておくこと。										
関連科目										
前科目	145	人体の構造・機能Ⅱ	402	生化学						
後科目	412	臨床血液学	413	臨床血液学実習	430	免疫学	422	遺伝子検査学	449	医学検査診断学Ⅰ
実務家教員										
医師（医療機関）	竹内 一人									
備考										